コープみやざきでは、地域の組合員さんに商品を届ける職員のことを「地域責任者」と呼びます。就職してまずは、就職前に楽しそうな仕事と感じた地域責任者に配属されました。働き始めてからは、先輩職員や同僚の地域責任者の優れた実践を真似して取り入れて、実績もついてきて仕事が楽しくなっていきました。その後、チームリーダーを任せていただくことになり、自信を持って臨みました。ところが、チームの数値目標どころか、自分の目標も達成できず苦しみました。なぜそうなってしまったのか。その時の私は、”組合員さんに喜ばれるため“ではなく、”どうしたら数値目標を達成して自分が楽になれるか“ということばかりを意識していたからでした。そんな苦しい時期を乗り越えるられたのは、やっぱり組合員さんとの交流のおかげです。

きっかけは、わが家に初めての子どもを授かったことでした。子どもが生まれたとき、配達の先々で組合員さんが「よかったね～おめでとう♪」「パパになりますね！がんばってください♪」と一緒になって喜んでくれて、たくさんの祝福をいただきました。「自分は組合員さんには何も喜ばれることはしてないのに、家族を守る父親としてこのままじゃいけない！」という感情が湧いてきて、少しずつ意識が変化していきました。「これまでの仕事のスタイルをすべて捨てて、一からやり直そう。純粋に組合員さんに喜ばれることをしよう。結果は後からついてくるはずだ」と。

それからは、組合員さんに「何かお困りのことはないですか？」「生協にご要望はありませんか？」と自然に尋ねるようになり、声に応えると「助かったわ～。ありがとうね！」と感謝の言葉をいただき、実績もついてくるまでになりました。過去の自分をふり返ると、仕事の分岐点はここだったように思います。

そんなある日、商品本部への辞令をいただきました。「商品の知識も経験もない、家でも料理をほとんどしない自分に責任が果たせるのだろうか？」と不安な中、品揃え担当の仕事がスタート。またも、なかなか結果がついていかない中、組合員さんから商品のお気に入りや使いこなしの声が寄せられるのを見て、自分で作ってみることに。意外にも簡単に美味しく作れた体験をカタログで組合員さんに紹介すると、「料理の参考になりますね」と喜んでいただけました。考えてみると、地域責任者の時も組合員さんから聴いたお気に入り商品の声を、他の組合員さんに教えると喜ばれて、他で聴いた声をまた他の組合員さんに伝えると、また喜ばれていたことを思い出しました。組合員さんに直接会えない商品担当でも、組合員さんに喜ばれることはたくさんあると気づきました。

いま私は、店舗や共同購入の商品の開発や改善、商品仕入れの仕事をしています。ドラックストア時代と同じ商品に携わる仕事ながら、「人に喜ばれることをする」ことで感謝の声をいただき、仕事のやりがいに繋がることを知りました。あの頃とはまったく違う価値観の組織に出会い、働けることを幸せに感じながら、これからも組合員さんのお役に立てる仕事をしていきます。

Yu Fukushima

誰かのために働ける喜びが人生を豊かにしてくれます

正直な自分でいられる不思議な巡り合わせに感謝！

大学を卒業し、最初に選んだのはドラッグストア企業でした。正社員として入社し、大手なので安泰かと思いきや、現場ではパート社員さん同士や上司との板挟みに悩む毎日が待っていました。時間内に終わる業務はなく、毎日深夜までの残業ながら固定手当だから手取り給与は増えない。販売ノルマにも追われ、体が気持ちについていかなくなったころに体調を崩して1年で辞めることに。「就職したらまずは3年」と言われていた時代のなか、辞めざるを得ない自分が許せず、自己嫌悪に陥りました。

退職後は特にやりたいこともなく過ごす中、母が利用していた共同購入の商品受け取り行く機会が。コープ職員と組合員さんが会話している姿を見て、「楽しそうな仕事だなぁ」と直感しました。ちょうどその時、配布されたカタログに総合職職員の募集案内があり、「生協を受けてみたら？」の母のひと言で受験することに。いま思うと、不思議な巡り合わせに縁をもらい、第二新卒として就職することができました。

実際に働いてみると、前職のようなノルマはなく、自分に嘘をつく必要がない。数値目標はあるけど、喜ばれる結果としての目標だから前職のノルマとは全く違う。だから、商品やサービスの良いところだけを伝えるのではなく、組合員さんのことを考えてデメリットも正直に伝えられる。正直に仕事に向かえることがどんなに幸せなことかを実感しました。そして組合員さんからは「ありがとう」の言葉をたくさんいただける。「この出会いを大切にしていこう」と誓った就職でした。